

発達障害に対する理解と対応 —「生徒指導提要」—

学習面、行動面、対人関係への指導・支援

- 学習面に困難のある児童生徒への対応は、できていないことやうまく取り組めていないことに注目しがちになる。苦手なことに対しても意欲を高めていくためには、できていることを認め、得意な面をうまく生かして指導や支援を行うことが大切になる。そのためには、強みを活かした学習方法に変えたり、合理的配慮を用いたりして、実力を発揮し、伸ばし、評価される支援を考える。

失敗経験の積み重ねにより、自分にはできないなどと自己評価が低くなっている場合も多く見られる。個別的な指導や支援を行う際には、特別な扱いをされることが、逆に心の痛手にならないように、プライドや自尊感情に配慮することも重要である。



- 行動面については、注意や叱責だけでは改善は難しいという前提に立ち、適切な行動を増やしていくという視点を持つことが大切である。
起きている行動だけに注目せず、きっかけになることや行動の結果など前後関係を通して要因を分析し対応を考える。失敗を指摘して修正させる対応ではなく、どういう行動をとればいいのかを具体的に教え、実行できたら褒めるなどの指導を通じて、成功により成就感や達成感が得られる経験と、それを認めてくれる望ましい人間関係が周囲にあることが大切である。
- 対人関係では、相手の状況を考えずに発言したことがトラブルのきっかけになったり、友達からの何気ない一言で心が傷つき不適応につながったりするなど思い違いや勘違いが影響することもある。
場面や状況を説明しながら、相手の気持ちや感情の読み取り、コミュニケーションの取り方についてイラストやロールプレイを用いるなどして、具体的な指導や支援を行うようにする。